

鮪ののり巻

市川茂子

急ぎの用事を終えて、帰って来た夕方から、気温が下がり強い風が出てきたので、このまま布団に入って寝てしまいたくなくなった。

今晚の食事は何にしようか、スーパーに寄る時間がなかったので、冷蔵庫にある物ですませようと考えているところに、待っていたかのようなタイミングで、近所の奥様が、夕食に鮪ののり巻を作ったからと言って、寒い風に吹かれながら持つて来てくれた。

お腹がすいていたので、思わず手を出して飛び上がるほど喜んだ。私にとっては、こんな時が、グッドタイミングになる。

奥様はときどきに煮物や、ませご飯、赤飯、野菜の料理など、私のために用意している器のパックではないかと思うほど、丁度いい量のごちそうを持ってきてくれる。ほかの方にも差し上げているようだ。来たときはいつも、体調のことや、何か困っていることがないかと、気遣ってくれる。

自宅では九十歳を過ぎたお母さんの介護をしながら、近くに住んでいる年配の方々を励ましたり、アドバイスするなど、忙しい日々のようにだ。その中に一人暮しの私もいる。奥様が自由に出歩くことが出来るのも、理解あるご主人に守られているからだと思う。

またお母さんは、お芝居や唄が好きなのでよく連れて行ったと聞いたことがある。お母さんは氷川きよしのファンで、近年は歩くことがおぼつかなくなってきたので、氷川きよしの公演だけは連れて行くようにしていると言う。

自宅からもっとも近い所が中野サンプラザなので、会場に行ってから車椅子を借りて、別通路から入れてもらうそうだ。私も芝居やコンサートに他の方と一緒に行くとうと誘われて連れて行ってもらったが、今はなるべく迷惑をかけないようにと思って、一人で行くことにしている。

まわりには色々心配してくれる方々がいて、心強いのだが、年寄りに免じてと甘えないように心がけている。が、出来ないことは、素直に助けってもらうことにする。後で大ごとになったら、かえって迷惑をかけることになってしまう。

鮪の中落ちから取れたと思われる、とろのたっぷり入ったのり巻を食べて、親切にして下さる奥様に、ごちそうさまと言いながら、今夜はゆっくり眠れそうだ。